

科目名	法文化史A History of Law and Culture A						
科目担当者	柴田 博子 SHIBATA Hiroko						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 関連科目]				ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)	
授業の概要	<p>国家・社会の秩序を維持する規範は、それぞれの社会の文化すなわち価値観を反映し、それに支えられているものである。そして新しい文化の輸入や文化事業の実施は、新しい規範や価値観の形成と深く結びつくが、その際に政治との関係も見いだすことが少なくない。</p> <p>本科目では、文化と規範との関係、政治との関わり、その歴史的変容を、日本史上の事象を素材として検討する。とりわけ国家成立時には、規範と法を成立させ機能させることと、文化的事業が深く関わっていた。そこで古代国家成立時と近代国家成立時の問題、日本史上の「神話」の問題、また大陸文化の輸入にともなう価値観・世界観の変容の様相などを取りあげる。</p>						
授業の到達目標	<p>①規範と文化との歴史的な関係を理解する。</p> <p>②『古事記』『日本書紀』に掲載された神話を知り、その規範としての機能を説明できる。</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション					
	2	文化・規範と法との関係					
	3	史料批判① いわゆるフェイクニュースについて					
	4	史料批判② 視点と方法					
	5	史料批判③ 天津教古文書					
	6	規範としての「神話」 古事記					
	7	規範としての「神話」 日本書紀					
	8	規範としての「神話」 記紀成立以後					
	9	いわゆる中世神話 神仏習合					
	10	文化事業のもつ規範形成機能					
	11	近代歴史教科書における「神話」					
	12	高千穂論争の内容と問題点					
	13	陵墓の治定をめぐる					
	14	近代国家と「神話」					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	課題図書を読み、レポートを作成する (30 時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	毎回、ノートとプリントから授業内容の要点を整理し、不明な箇所を調べておく (毎週 2 時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	毎回のリアクションペーパーもしくは小テスト 学期中レポート 定期試験				60% 20% 20%	①、② ① ②	
成績評価基準	<p>秀：(評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：(評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：(評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：(評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：(評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合</p>						
教科書	毎時、プリントを配付する。						
参考文献	講義中に適宜指示する。						
その他							